

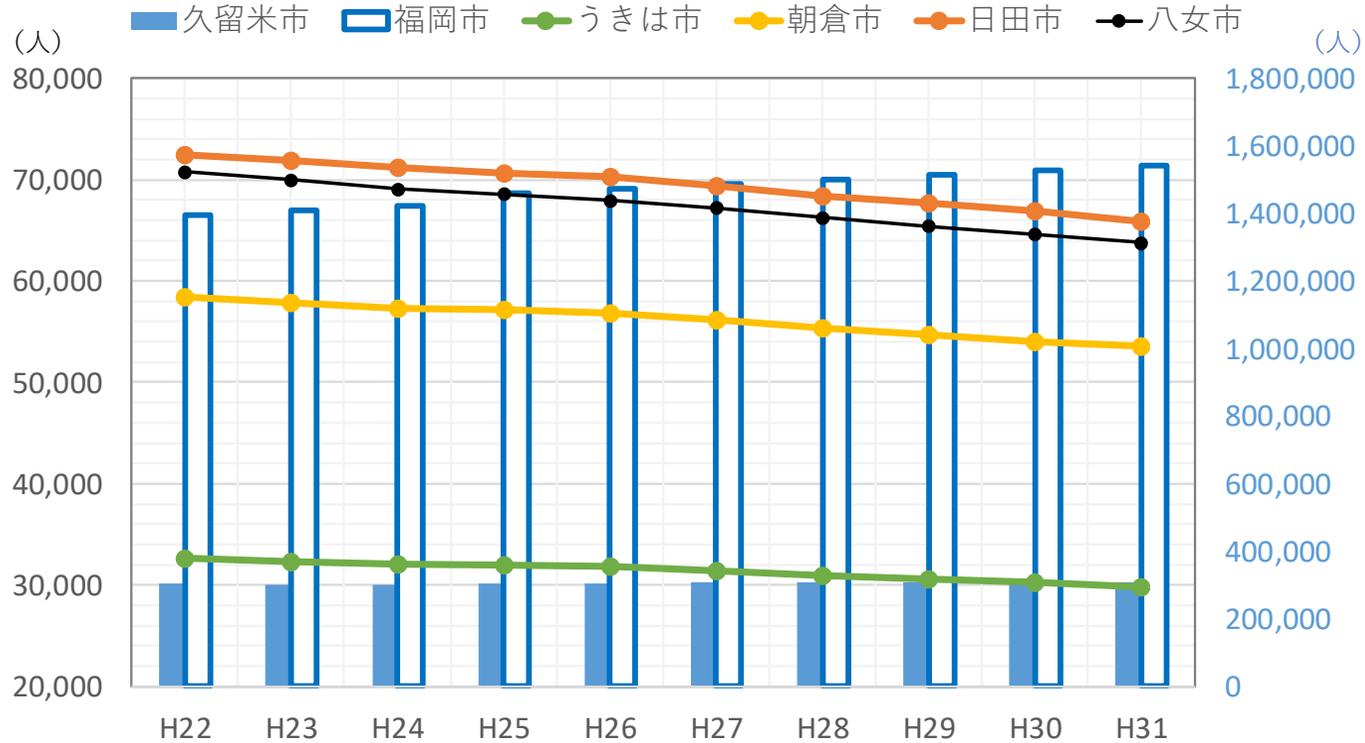
筑後吉井グランドビジョン
資料編



資料編__調査報告書 人口の観点でみるうきは市

人口の推移

うきは市の人口が減少傾向、対して近隣の都市圏については増加傾向



【H31年度人口】

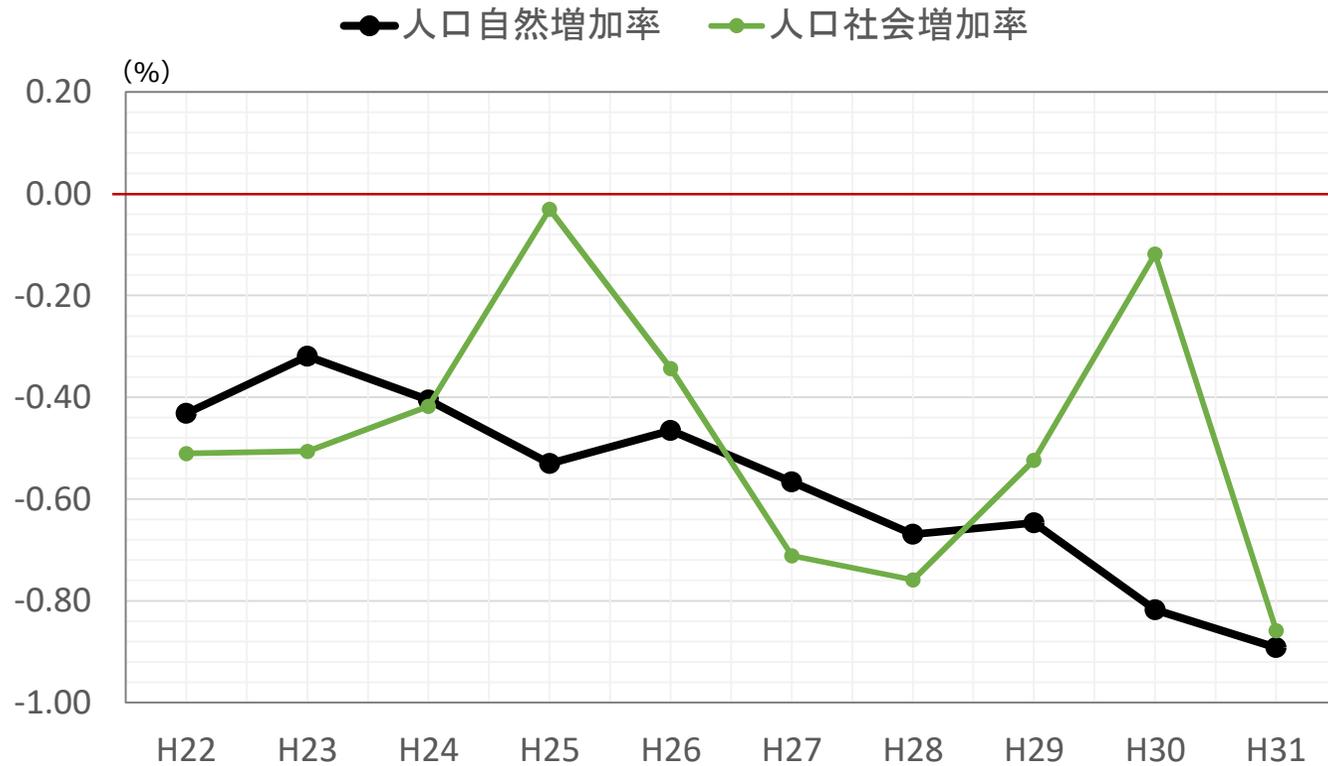
(人)

| うきは市 | 久留米市 | 朝倉市 | 日田市 | 八女市 | 福岡市 |
|--------|---------|--------|--------|--------|-----------|
| 29,763 | 306,112 | 53,515 | 65,861 | 63,759 | 1,540,923 |

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

人口動態

うきは市の人口自然減は加速傾向。社会増もマイナスを維持している

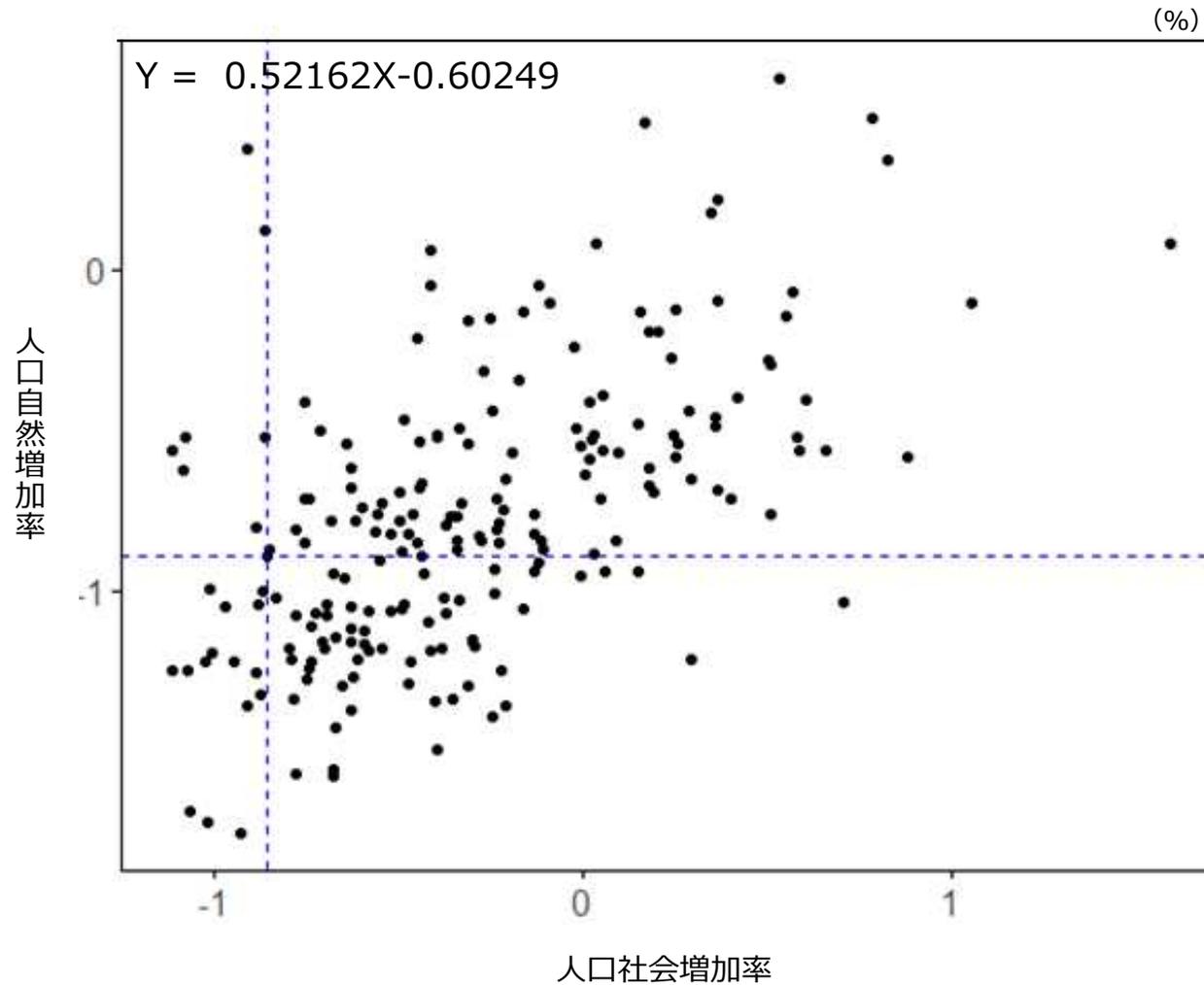


| | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人口自然増加率 (%) | -0.57 | -0.67 | -0.65 | -0.82 | -0.89 |
| 人口社会増加率 (%) | -0.71 | -0.76 | -0.52 | -0.12 | -0.86 |

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

人口2.5万人～3.5万人自治体の人口動態の分布

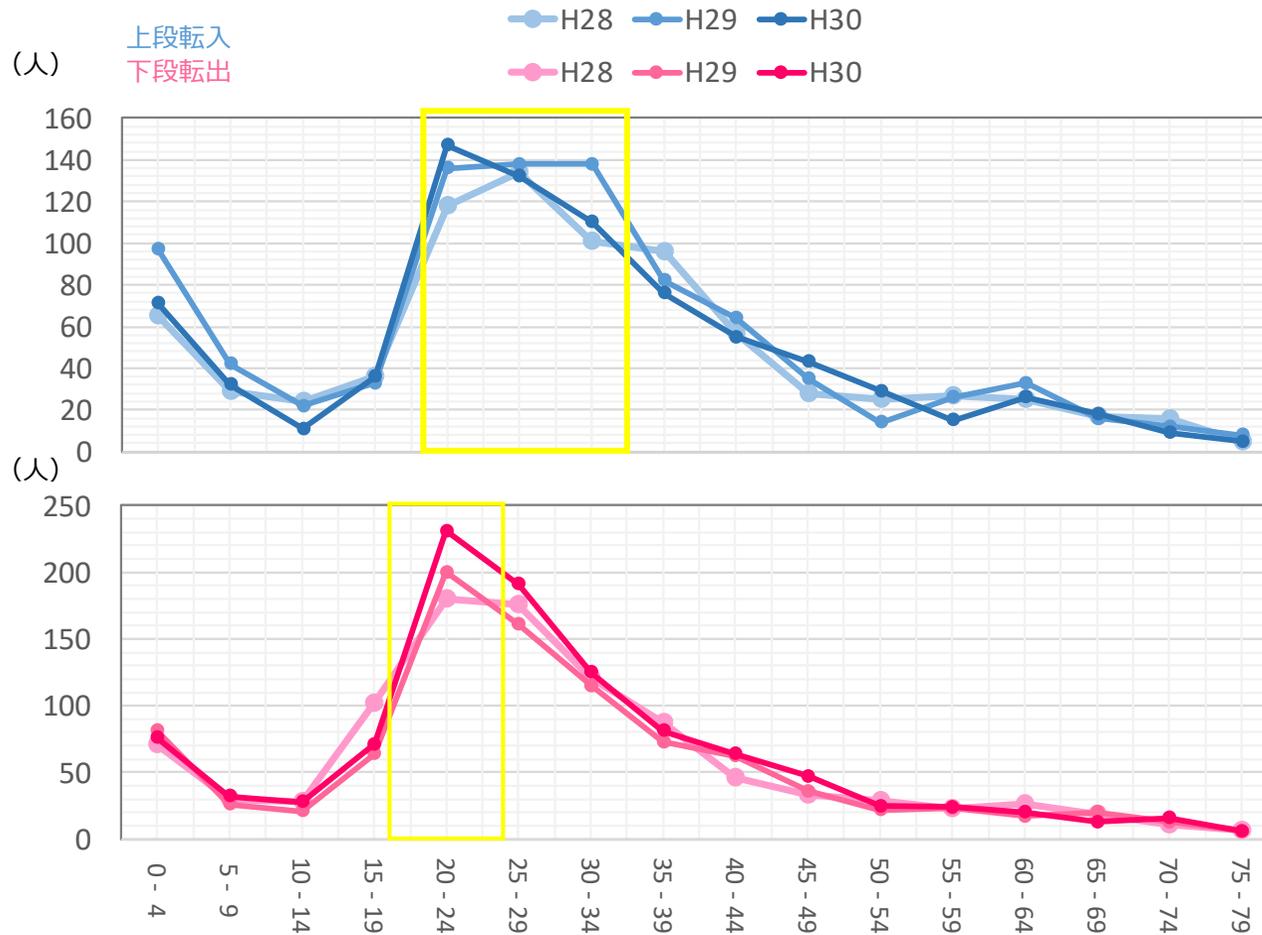
うきは市の人口増加率は類似自治体の中でも低い部類
社会増が増えると、自然増も増える傾向



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

年齢階層別転入出

転入出とも20代前半がピーク。転入については、30代半ばまでピークが続く

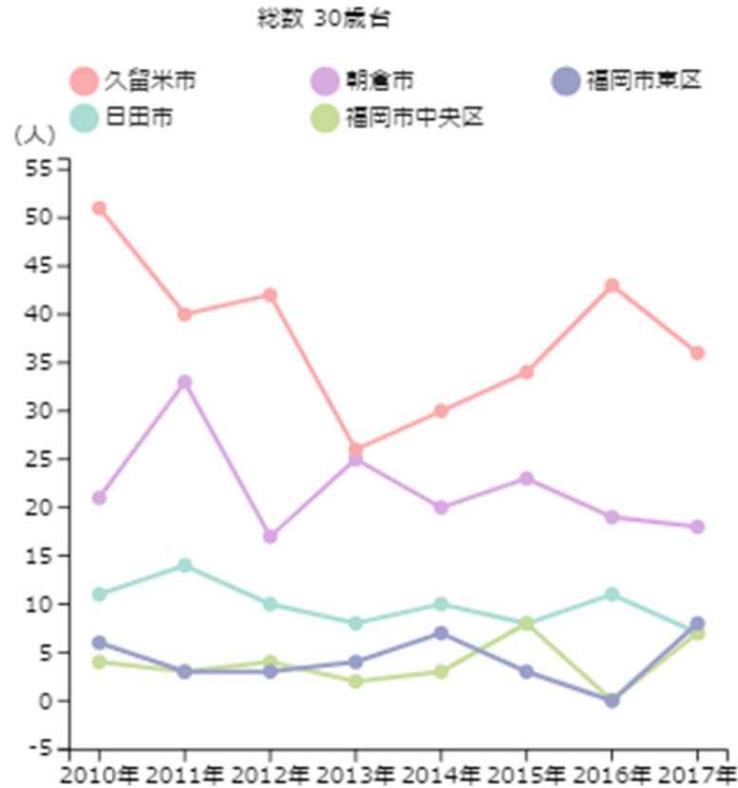


出典：福岡県「人口移動調査 福岡県の人口と世帯年報」

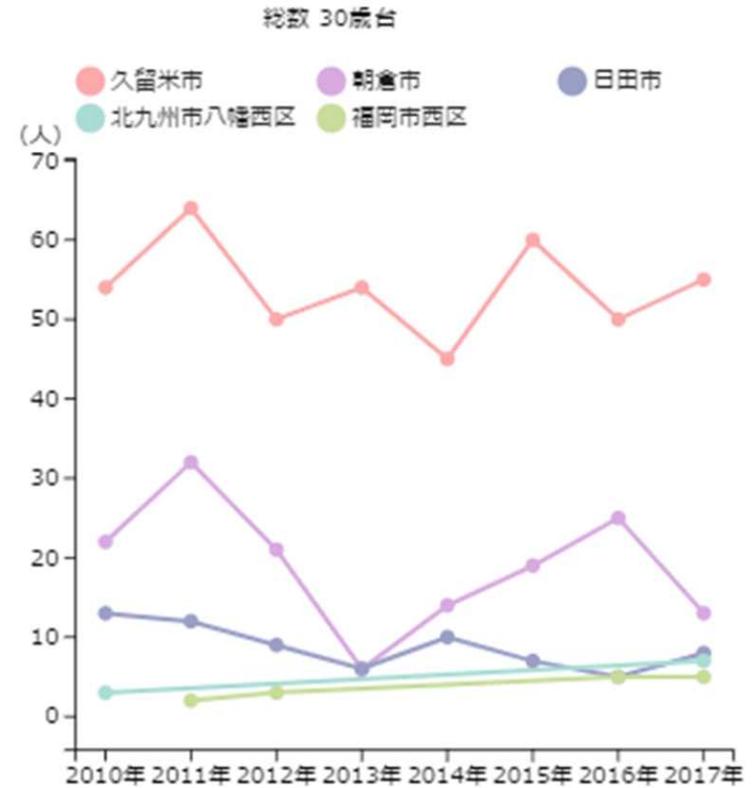
30代転入出先

30代では、転入転出とも久留米市が最も多い

転入数上位5地域 2017年



転出数上位5地域 2017年



【出典】 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

ファクト

1. うきは市の人口は減少傾向、対して近隣の都市圏については増加傾向
2. うきは市の人口自然減は加速傾向。社会増もマイナスを維持している
3. うきは市の人口増加率は類似自治体の中でも低い部類
4. 社会増が増えると、自然増も増える傾向
5. 転入出とも20代前半がピーク。転入については、30代半ばまでピークが続く
6. 30代では、転入転出とも久留米市が最も多い



考察

人口減少を食い止めるには社会減を改善することが手立て。
就業機会の創出や住みたくなる町づくりなどによる、
近隣への転出を抑制し、転入を拡大する方策が望まれる。



資料編__調査報告書 子育ての観点でみるうきは市

待機児童数

現時点でうきは市には待機児童はおらず、整備量も拡大傾向

| | 年齢 | 2019年4月1日 | 2020年4月1日 | 2021年4月1日 |
|-----------------|-------|-----------|-----------|-----------|
| | | 実績 | 見込・計画数 | 見込・計画数 |
| 申込者数 (保育ニーズ) | 0歳児 | 24人 | 25人 | 29人 |
| | 1・2歳児 | 218人 | 243人 | 250人 |
| | 3歳以上児 | 548人 | 580人 | 570人 |
| | 合計 | 790人 | 848人 | 849人 |
| 利用定員数 (整備量) | 0歳児 | 47人 | 25人 | 29人 |
| | 1・2歳児 | 202人 | 243人 | 250人 |
| | 3歳以上児 | 566人 | 580人 | 570人 |
| | 合計 | 815人 | 848人 | 849人 |
| 待機児童数 | 0歳児 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | 1・2歳児 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | 3歳以上児 | 0人 | 0人 | 0人 |
| | 合計 | 0人 | 0人 | 0人 |

出典：うきは市 「子育て安心プラン実施計画」

子どもの預け先

うきは市の保育は、保育所、認定こども園で充足しており、
待機児童、育児休業取得者はいない

| | | | | | |
|-----------------|-----|---------------------|----|---------------------|---|
| 保育所を利用している者 | 705 | 幼保連携型認定こども園を利用している者 | 78 | 幼稚園型認定こども園等を利用している者 | 7 |
| 地域型保育事業を利用している者 | 0 | 特例保育等を利用している者 | 0 | 企業主導型保育事業を利用している者 | 0 |
| 地方単独事業を利用している者 | 0 | 育児休業中の者 | 0 | 特定の保育園等のみ希望している者 | 0 |
| 求職活動を休止している者 | 0 | 待機児童 | 0 | | |

(人)

出典：厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ(平成31年4月1日)及び「子育て安心プラン」集計結果」

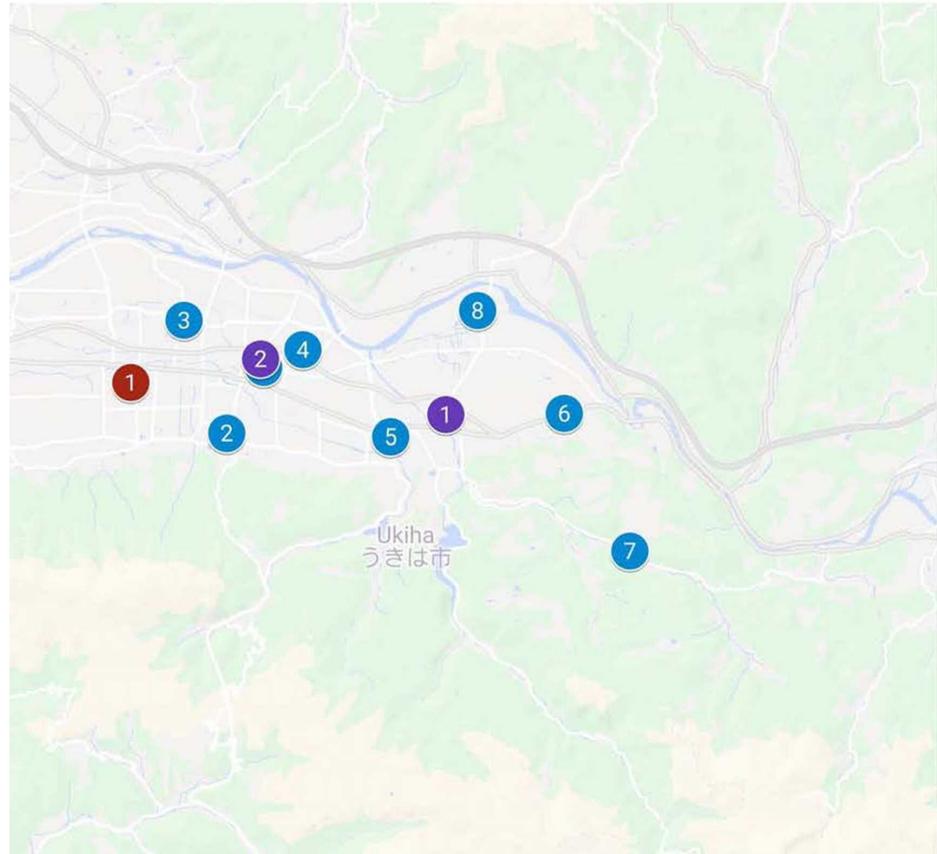
子どもの進学先

うきは市では比較的多くの小学校があるのに対して、
中学校、高等学校の数は少ない

- ① うきは市立吉井小学校
- ② うきは市立福富小学校
- ③ うきは市立江南小学校
- ④ うきは市立千年小学校
- ⑤ うきは市立御幸小学校
- ⑥ うきは市立山春小学校
- ⑦ うきは市立小塩小学校
- ⑧ うきは市立大石小学校

- ① うきは市立浮羽中学校
- ② うきは市立吉井中学校

- ① 福岡県立浮羽究真館高等学校



画像 : google map

うきは市の公共文化施設

市町村合併による影響で、うきは市には比較的多くの文化教育施設がある

コミュニティセンター

妹川コミュニティセンター

新川コミュニティセンター

田籠コミュニティセンター

小塩コミュニティセンター

山春コミュニティセンター

大石コミュニティセンター

御幸コミュニティセンター

千年コミュニティセンター

吉井コミュニティセンター

福富コミュニティセンター

江南コミュニティセンター

体育施設

うきはアリーナ

うきは市吉井体育センター

うきは市スポーツアイランド

うきは市浮羽体育センター

うきは市大春トリムセンター

文化施設

るり色ふるさと館

うきは市文化会館（愛称・白壁ホール）

金子文夫資料展示館

吉井歴史民俗資料館

うきは市立図書館

うきは市立浮羽歴史民俗資料館

うきは市民ホール（愛称・かわせみホール）

出典：うきは市HP

子育ての観点でみるうきは市

ファクト

1. 現時点でうきは市には待機児童はおらず、整備量も拡大傾向
2. うきは市の保育は、保育所、認定こども園で充足しており、待機児童、育児休業取得者はいない
3. うきは市では比較的多くの小学校があるのに対して、中学校、高等学校の数は少ない
4. うきは市には、山間部と都市部にいくつかの公園があるが、いずれも極めて小規模である
5. 市町村合併による影響で、うきは市には比較的多くの文化教育施設がある



考察

うきは市の子どもを預ける環境は充足している。

反面、子どもを遊ばせる場所を欠いている。

一方、児童数が減る環境下において、小学校や文化教育施設が多いため、それらの既存ストックの活用が肝要であると考察される。

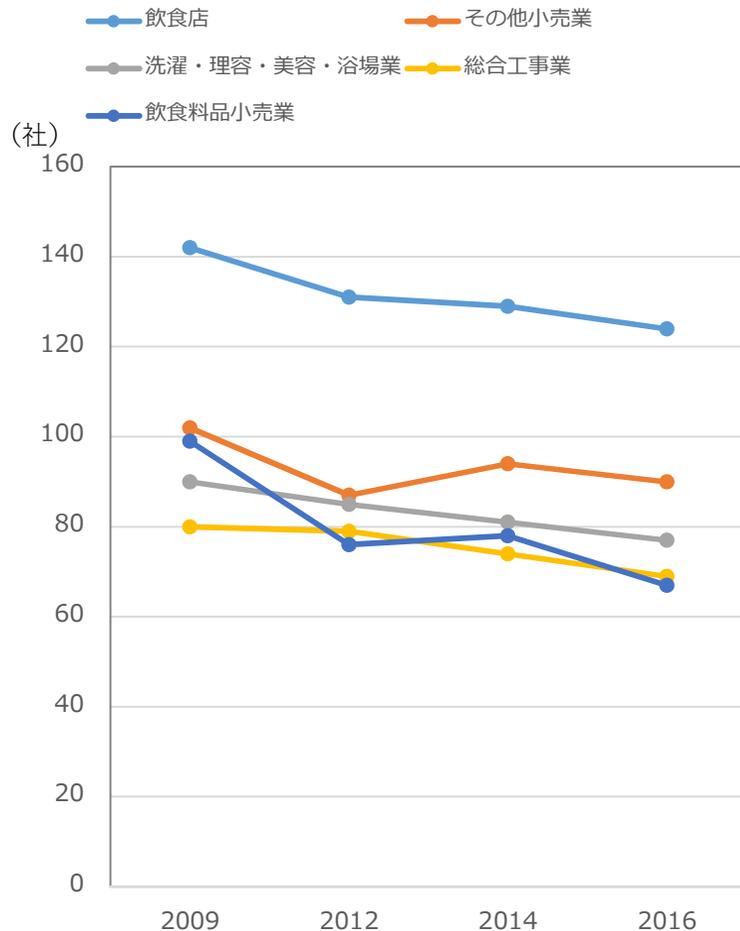


資料編__調査報告書 産業の観点でみるうきは市

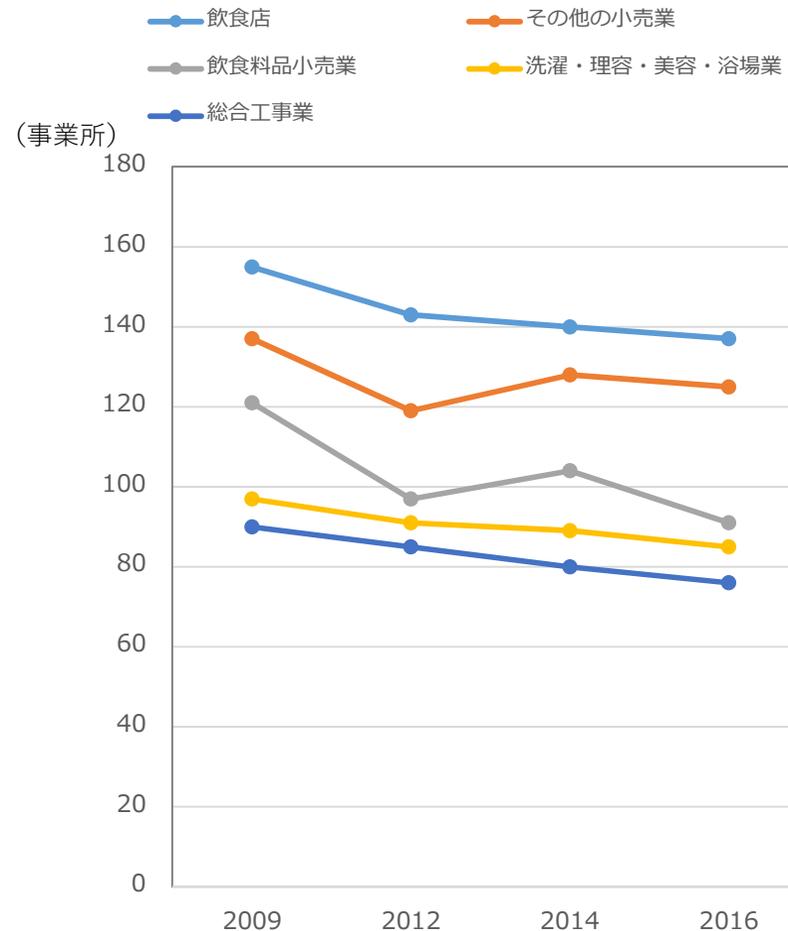
会社数・事業所数の推移

うきは市では、会社数、事業所数とともに減少傾向
(ただし他自治体より減少はゆるやか)

【会社数（上位5産業を抜粋）】



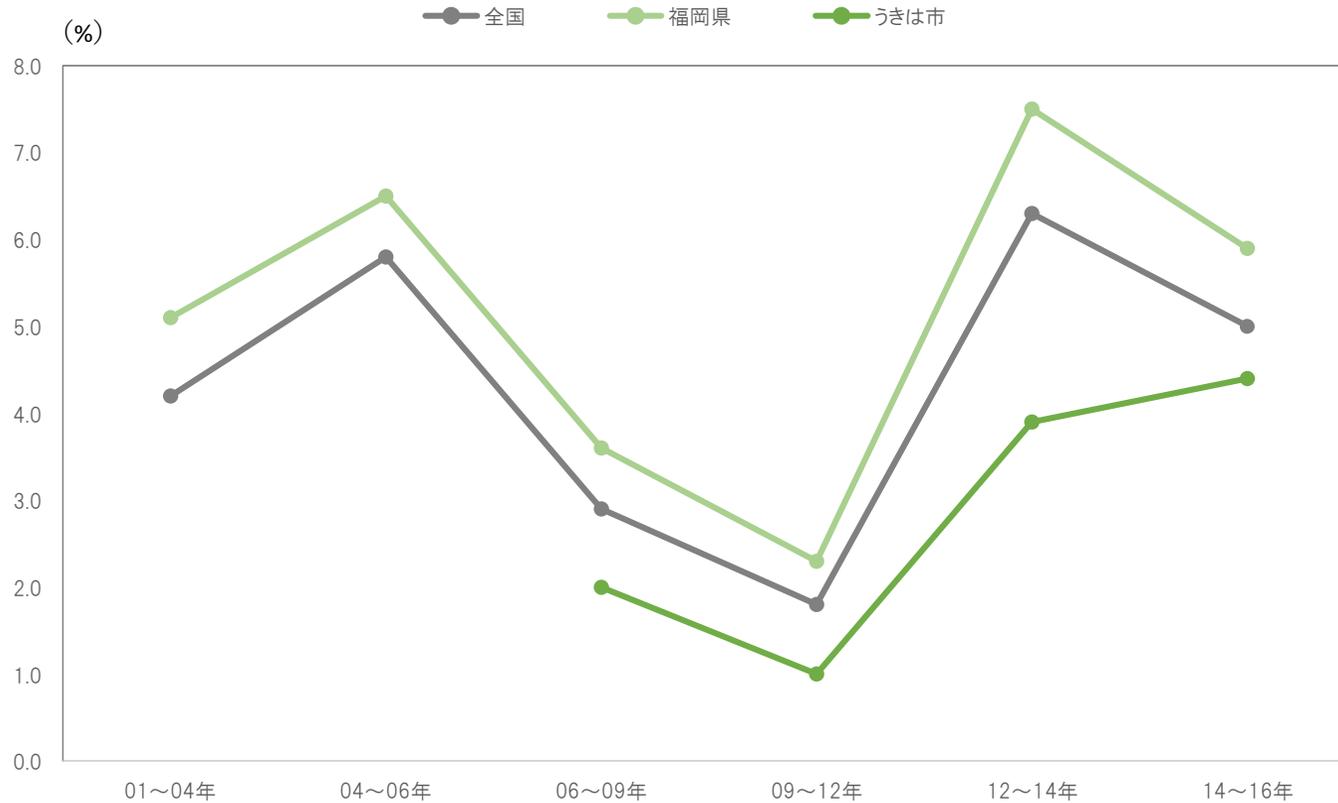
【事業所数（上位5産業を抜粋）】



出典：総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

創業比率

一方で創業比率については上昇トレンドを描いている



出典：
総務省「事業所・企業統計調査」、総務省「経済センサス-基礎調査」
総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

産業別創業数

うきは市では販売・卸の新規事業所開設が多いが、
コンビニエンスストアなどのチェーン店を除くと、うきは市では小資本の飲食店の新規創業が多い

※個人情報保護のため、一部塗りつぶし処理をしております。

| 産業 | 業種 | 事業所名 | 経過年数 |
|------|----|------|------|
| 販売・卸 | | | 1 |
| 販売・卸 | | | 2 |
| 販売・卸 | | | 2 |
| 販売・卸 | | | 1 |
| 販売・卸 | | | 1 |
| 販売・卸 | | | 3 |
| 販売・卸 | | | 1 |
| 販売・卸 | | | 3 |
| 販売・卸 | | | 1 |
| 販売・卸 | | | 3 |
| 販売・卸 | | | 2 |
| 販売・卸 | | | 2 |
| 販売・卸 | | | 2 |
| 販売・卸 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 2 |
| 飲食店 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 2 |
| 飲食店 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 3 |
| 飲食店 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 3 |
| 飲食店 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 2 |
| 飲食店 | | | 1 |
| 飲食店 | | | 2 |
| 飲食店 | | | 2 |

経過年数は2018年集計時点

ファクト

1. うきは市では他自治体と比較して緩やかながら、会社数、事業所数とともに減少傾向
2. 一方で創業比率については上昇トレンドを描いている
3. うきは市では飲食店の創業がここ数年多い



考察

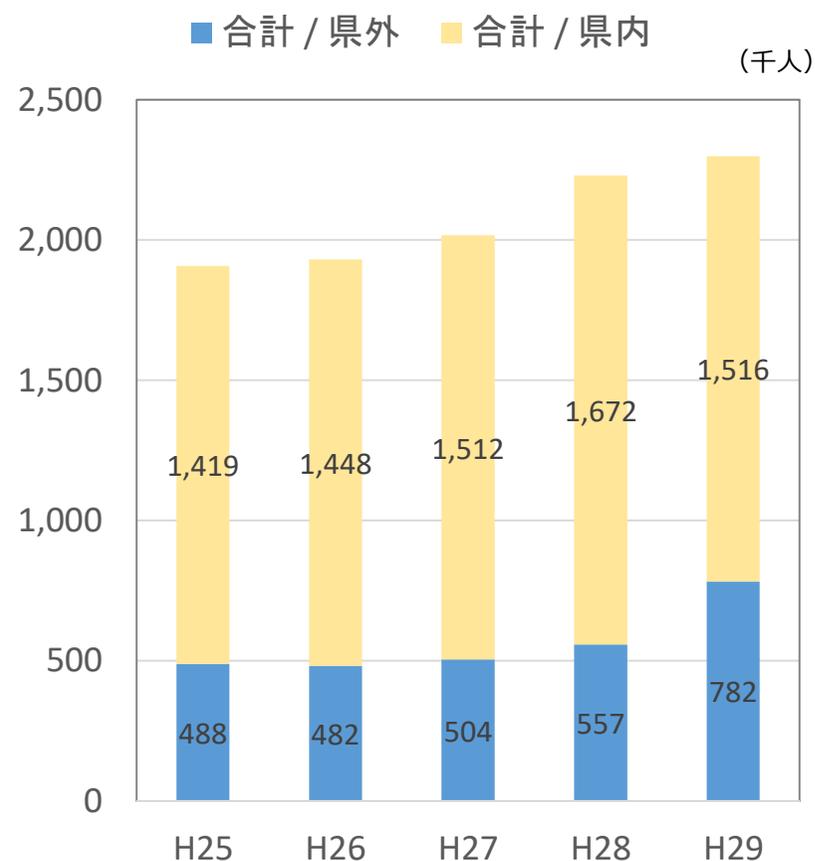
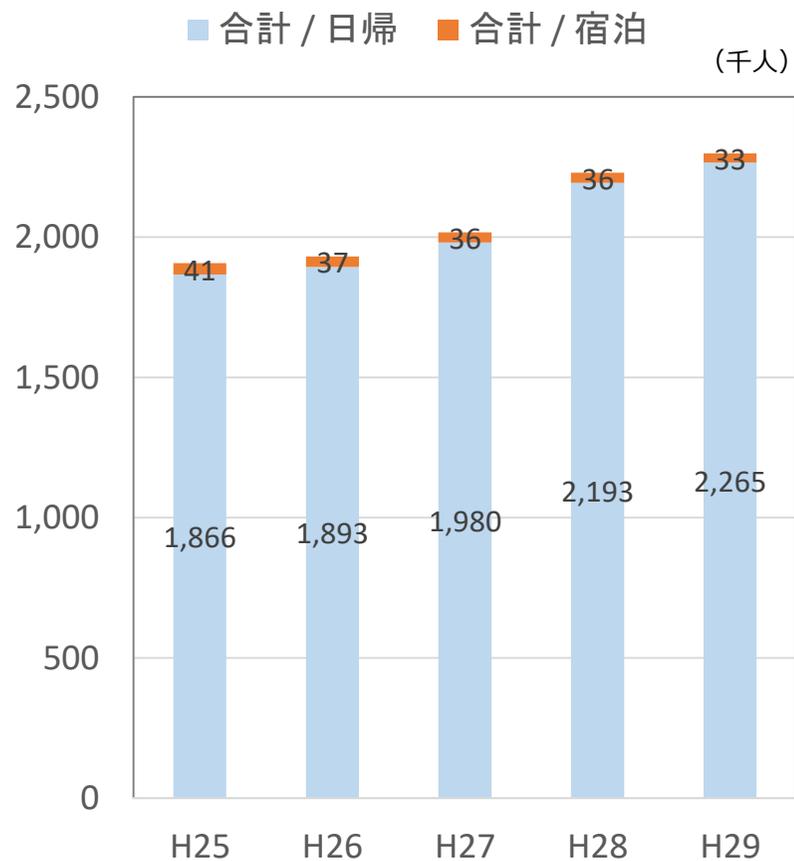
緩やかながら雇用環境は悪化傾向。
その一方で、小資本による創業が活況。
若年層が自ら働き先を創出していることが考察される。



資料編__調査報告書 観光の観点でみるうきは市

観光入込客数

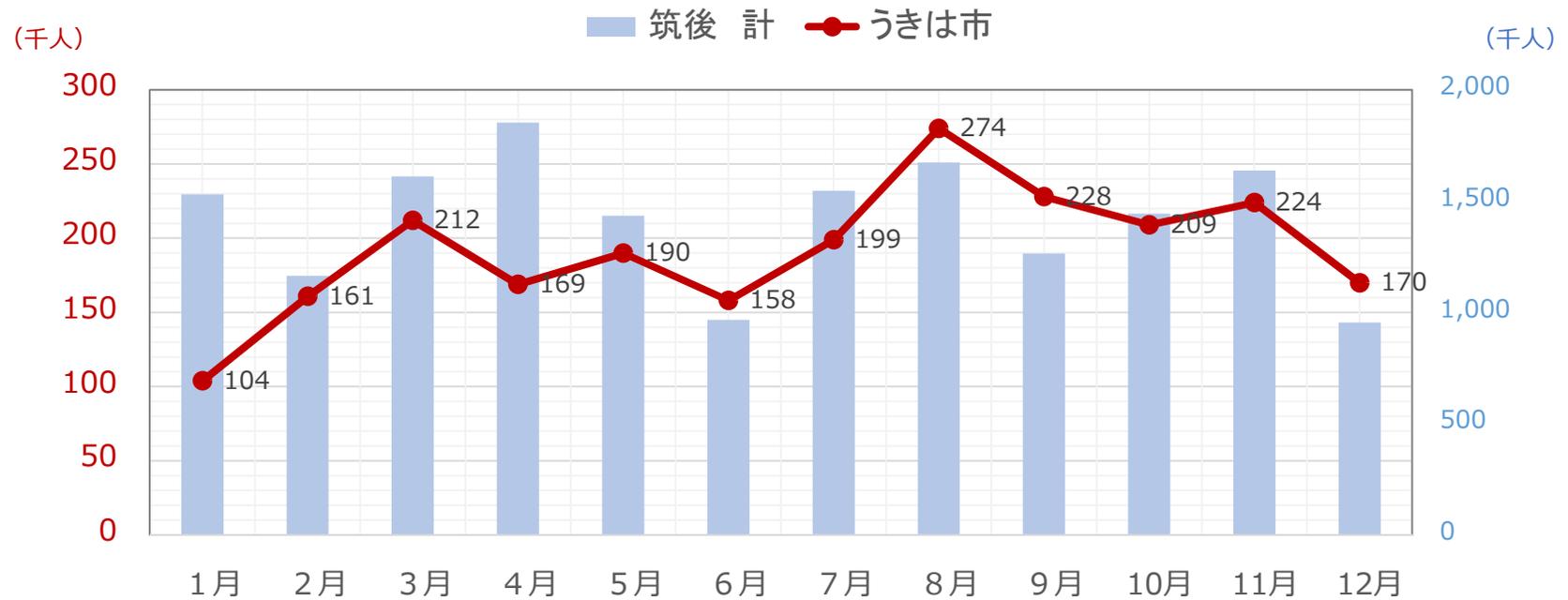
うきは市の観光入込客数は増加傾向。多くは日帰り客で県内客



出典：福岡県「福岡県観光入込調査」

観光入込客数の季節変動

うきは市観光のピークシーズンはフルーツの収穫シーズンと連動する傾向



出典：福岡県「福岡県観光入込調査」

うきは市への目的地検索数

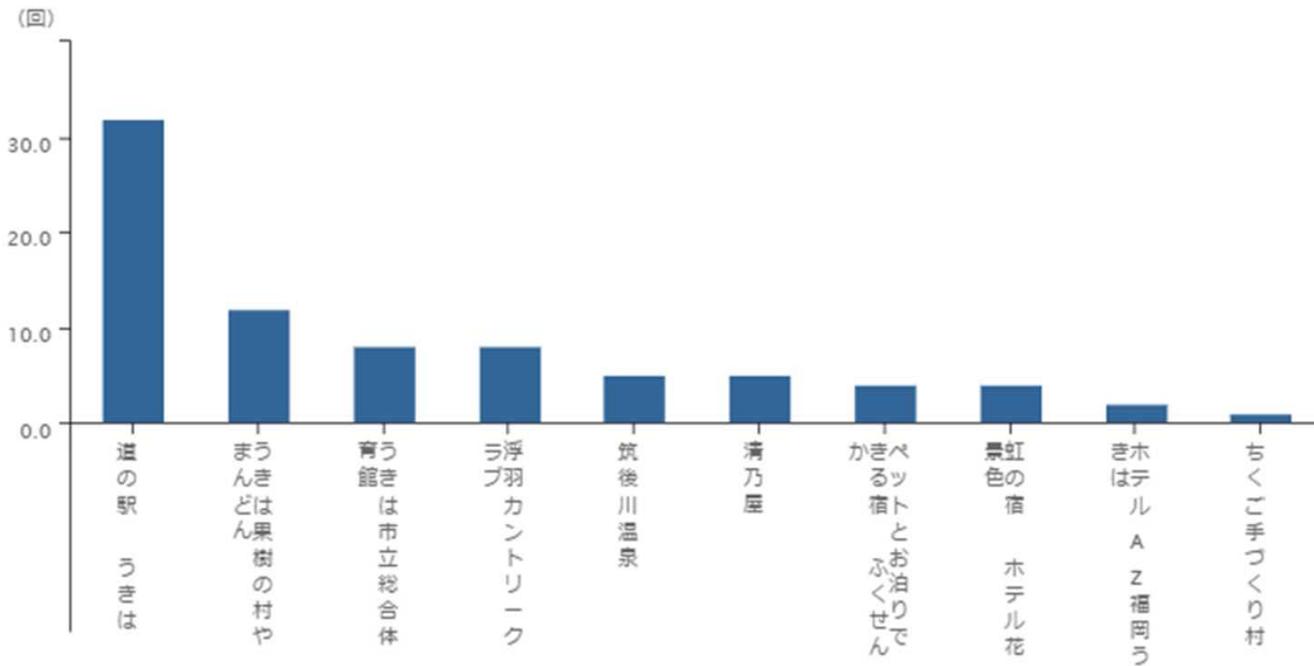
「道の駅うきは」、「うきは果樹の村やまんどん」の検索数が多い

指定地域の目的地一覧

表示年月：2017年8月（休日）

指定地域：福岡県うきは市

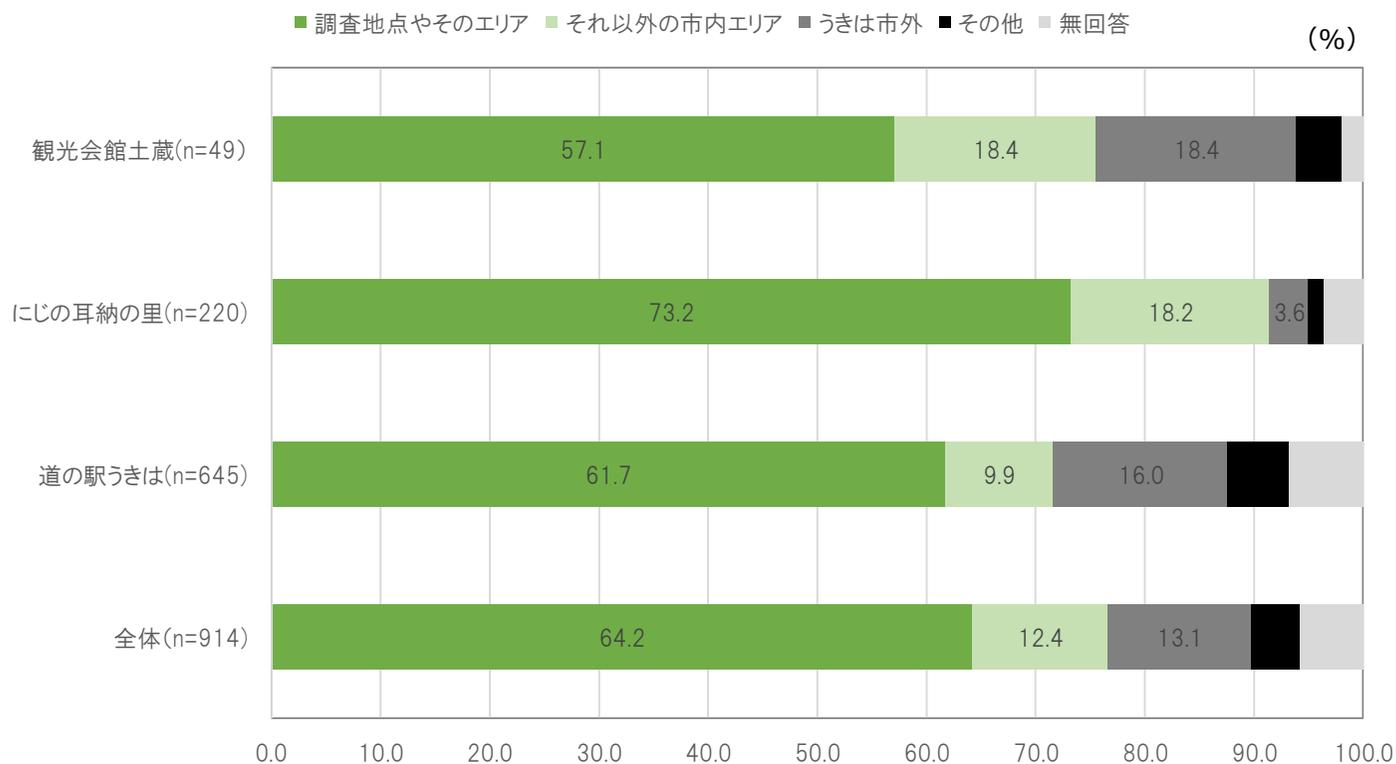
交通手段：自動車



出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

うきは市観光目的地

道の駅うきはエリア、にじの耳納の里エリア、観光会館土蔵エリアがうきは市訪問の主目的先



出典：うきは市「うきは市来訪者アンケート調査に関する企画・運営・分析業務 R1」

うきは市訪問回数

道の駅うきはエリア、にじの耳納の里エリアは定番の旅行地としてリピートが多くなっているのに対して、観光会館土蔵エリアはここ1年間で訪問回数に伸びがみられるが、先の二地点と比較して少なくなっている。

H30年調査

(%)

| | 1 回目 | 2 から 3 回目 | 4 から 9 回目 | 10 から 49 回目 | 50 回 以上 | 無 回 答 |
|----------------|---------|--------------------|--------------------|----------------------|---------------|-------------|
| 道の駅うきは(n=895) | 12.6 | 14.7 | 14.3 | 34.4 | 22.9 | 1.0 |
| にじの耳納の里(n=202) | 0.5 | 5.4 | 9.4 | 45.5 | 39.1 | 0.0 |
| 観光会館土蔵(n=121) | 30.6 | 16.5 | 13.2 | 24.0 | 15.7 | 0.0 |

R1年調査

(%)

| | 1 回目 | 2 から 3 回目 | 4 から 9 回目 | 10 から 49 回目 | 50 回 以上 | 無 回 答 |
|----------------|---------|--------------------|--------------------|----------------------|---------------|-------------|
| 道の駅うきは(n=645) | 11.6 | 14.9 | 18.1 | 32.9 | 22.5 | 0.0 |
| にじの耳納の里(n=220) | 5.9 | 6.8 | 8.2 | 26.4 | 52.7 | 0.0 |
| 観光会館土蔵(n=49) | 14.3 | 28.6 | 12.2 | 30.6 | 14.3 | 0.0 |

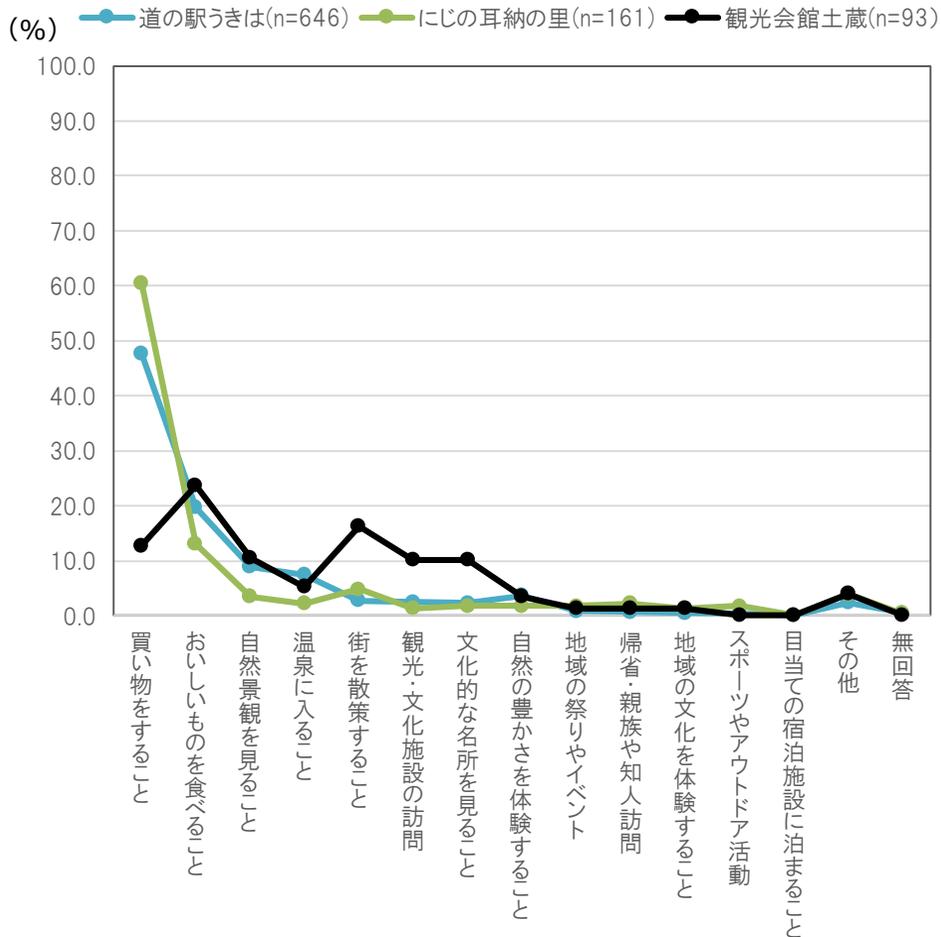
出典：うきは市「うきは市来訪者アンケート調査に関する企画・運営・分析業務 H30」

出典：うきは市「うきは市来訪者アンケート調査に関する企画・運営・分析業務 R1」

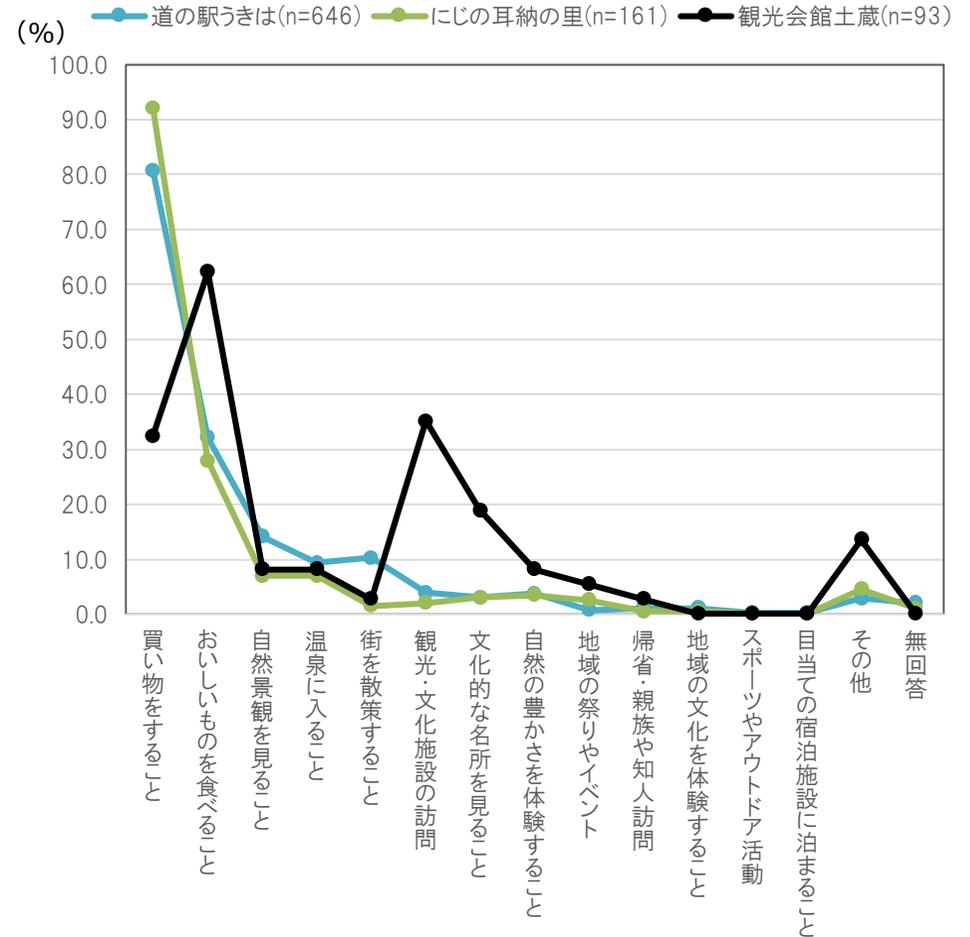
うきは市への旅行目的

道の駅うきはエリア、にじの耳納の里エリアでは買い物、
観光会館土蔵エリアではおいしいものを食べることが主目的になっており、
1年を経てエリアの特徴認知が進んでいる

H30年調査



R1年調査



出典：うきは市「うきは市来訪者アンケート調査に関する企画・運営・分析業務 H30」

うきは市での消費金額

それぞれのエリアとも買い物金額は3000円から4000円程度、
食事金額は1700円から2200円程度となっている。いずれのエリアでも前年度から伸長がみられる。

R1年調査

買い物代(予定含む)

| | (%) | | | | | | R1 平均(円) | H30 平均(円) |
|----------------|------|-----------|------------|------------|--------------|---------|-------------|--------------|
| | 千円未満 | 千円から3千円未満 | 3千円から5千円未満 | 5千円から1万円未満 | 1万円から1万5千円未満 | 1万5千円以上 | | |
| 道の駅うきは(n=581) | 3.1 | 39.6 | 28.4 | 20.0 | 6.4 | 2.6 | 3,836 | 3,368 |
| にじの耳納の里(n=214) | 3.3 | 39.7 | 30.8 | 21.0 | 4.2 | 0.9 | 3,626 | 3,614 |
| 観光会館土蔵(n=33) | 6.1 | 45.5 | 39.4 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 2,915 | 3,028 |

食費(予定含む)

| | (%) | | | | | | R1 平均(円) | H30 平均(円) |
|----------------|------|-----------|------------|------------|--------------|---------|-------------|--------------|
| | 千円未満 | 千円から3千円未満 | 3千円から5千円未満 | 5千円から1万円未満 | 1万円から1万5千円未満 | 1万5千円以上 | | |
| 道の駅うきは(n=581) | 19.9 | 65.2 | 10.3 | 2.5 | 2.1 | | 1,730 | 1,574 |
| にじの耳納の里(n=214) | 5.0 | 76.7 | 8.3 | 8.3 | | 1.7 | 2,211 | 1,858 |
| 観光会館土蔵(n=33) | 3.0 | 75.8 | 15.2 | 6.1 | | | 2,142 | 1,689 |

観光受け入れ施設分布

宿泊施設数は少なく、飲食店が集中する吉井と朝田には1軒も宿泊施設がない

| | 飲食 | 旅館民宿 | ホテル |
|--------|----|------|-----|
| 吉井町 | 51 | | |
| 浮羽町朝田 | 21 | | |
| 浮羽町東隈上 | 9 | 1 | 1 |
| 吉井町生葉 | 7 | | |
| 浮羽町浮羽 | 7 | | |
| 吉井町千年 | 6 | 4 | |
| 浮羽町山北 | 6 | | |
| 吉井町若宮 | 5 | | |
| 浮羽町古川 | 5 | 5 | 1 |
| 浮羽町田籠 | 5 | 1 | |
| 吉井町橘田 | 4 | | |
| 吉井町清瀬 | 4 | | |
| 浮羽町西隈上 | 4 | | |
| 吉井町福益 | 3 | | |
| 吉井町新治 | 3 | | |
| 吉井町富永 | 3 | | |
| 浮羽町三春 | 3 | | |
| 浮羽町流川 | 3 | | |
| 吉井町鷹取 | 2 | | |
| 吉井町福永 | 1 | | |
| 吉井町徳丸 | 1 | | |
| 吉井町桜井 | 1 | | |
| 浮羽町高見 | 1 | | |
| 浮羽町小塩 | 1 | | |
| 浮羽町新川 | | 1 | |

156

12

2

出典：iタウンページ

飲食店構成

飲食店が集中する吉井町では、
スナックやバー、レストランなど夜型の飲食店が約半数を占める

| 業種 | 件数 | 構成比 (%) |
|------------|----|---------|
| スナック・バー・酒場 | 16 | 31.37 |
| その他レストラン | 8 | 15.69 |
| 喫茶 | 7 | 13.73 |
| ラーメン・餃子 | 5 | 9.80 |
| 焼き鳥・炉端焼き | 4 | 7.84 |
| すし | 4 | 7.84 |
| そば・うどん | 2 | 3.92 |
| 中華料理 | 2 | 3.92 |
| 和食飲食 | 2 | 3.92 |
| 仕出し・弁当 | 1 | 1.96 |

出典：
総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済
産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

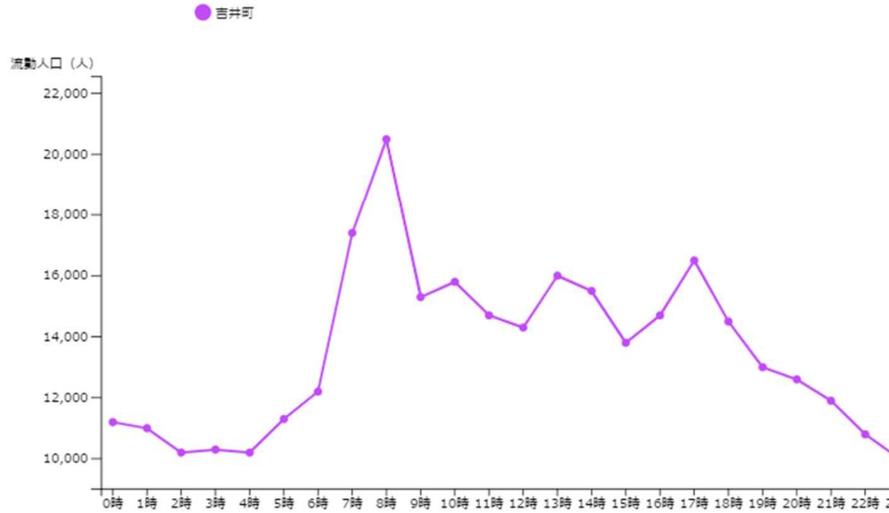
時間帯別流動人口

吉井町では、平日は朝の出勤・通学の時間帯、夕方の帰宅の時間帯がピークとなり、
休日は8時～10時の幅、16時～19時の幅の時間帯をもってピークとなる。

平日

流動人口マップ

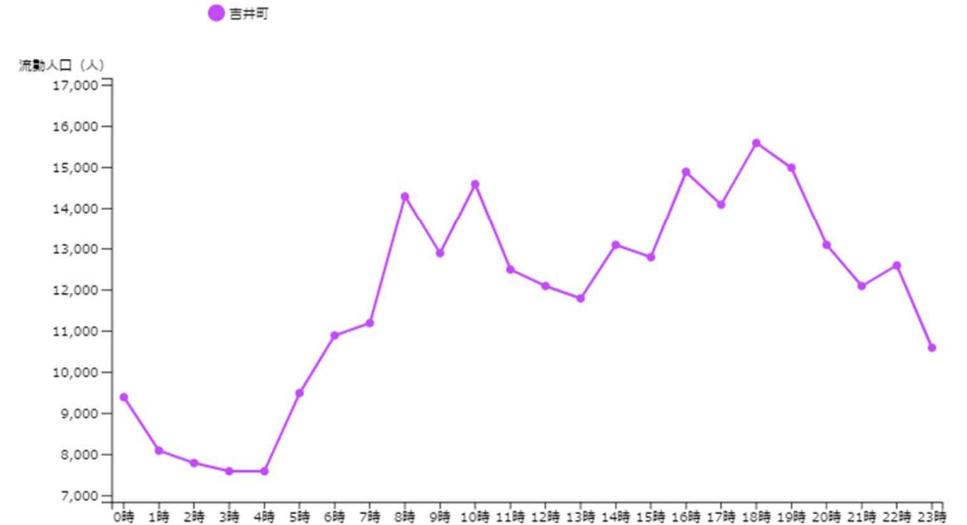
2016年（平日）8月 時間帯別推移



休日

流動人口マップ

2016年（休日）8月 時間帯別推移



出典：株式会社Agoop「流動人口データ」

ファクト

1. うきは市の観光入込客数は増加傾向。多くは日帰り客で県内客
2. うきは市観光のピークシーズンはフルーツの収穫シーズンと連動する傾向
3. 道の駅うきは、うきは果樹の村やまんだんの検索数が多い
4. 道の駅うきはエリア、にじの耳納の里エリア、観光会館土蔵エリアがうきは市訪問の主目的先
5. 道の駅うきはエリア、にじの耳納の里エリアは定番の旅行地としてリピートが多くなっているのに対して、観光会館土蔵エリアはここ1年間で訪問回数に伸びがみられるが、先の二地点と比較して少なくなっている
6. 道の駅うきはエリア、にじの耳納の里エリアでは買い物、観光会館土蔵エリアではおいしいものを食べるのが主目的になっており、1年を経てエリアの特徴認知が進んでいる
7. それぞれのエリアとも買い物金額は3000円から4000円程度、食事金額は1700円から2200円程度となっている。いずれのエリアでも前年度から伸長がみられる
8. 宿泊施設数は少なく、飲食店が集中する吉井と朝田には1軒も宿泊施設がない
9. 飲食店が集中する吉井町では、スナックやバー、レストランなど夜型の飲食店が約半数を占める
10. 吉井町では、平日は朝の出勤・通学の時間帯、夕方の帰宅の時間帯がピークとなり、休日は8時～10時の幅、16時～19時の幅の時間帯をもってピークとなる



考察

うきは市ではフルーツが強い訪問動機になっている。
うきは市全域で観光地認知が向上しつつある。消費金額も高まっているが
滞在時間が短いことに起因する消費金額の低さがみられるため、宿泊施設を増やすなどの施策が望まれる。

全体まとめ

人口の観点から

人口減少を食い止めるには社会減を改善することが手立て。
就業機会の創出や住みたくなる町づくりなどによる、
近隣への転出を抑制し、転入を拡大する方策が望まれる。

産業の観点から

緩やかながら雇用環境は悪化傾向。
その一方で、小資本による創業が活況。
若年層が自ら働き先を創出していることが考察される。

子育ての観点から

うきは市の子どもを預ける環境は充足している。
反面、子どもを遊ばせる場所を欠いている。
一方、児童数が減る環境下において、小学校や文化教育施設が多いため、それらの既存ストックの活用が肝要であると考察される。

観光の観点から

うきは市ではフルーツが強い訪問動機になっている。
うきは市全域で観光地認知が向上しつつある。消費金額も高まっているが滞在時間が短いことに起因する消費金額の低さがみられるため、宿泊施設を増やすなどの施策が望まれる。



20代30代を惹きつけたい

若年層の起業に期待

観光産業に伸び代

統計的にも実感的にも、ここ数年でうきは市は活気付いている。

その活気を牽引しているのが、20代・30代のチャレンジングな起業家である。

うきは市は“もっと”20代・30代が住み良いまち・挑戦できるまちでありたい。

そのためには起業をする環境整備や、子育ての環境整備が望まれている。

彼らの挑戦は、住む人・観光の人を惹きつけるポジティブなスパイラルを生み出してくれるだろう。